

【②伊勢街道と街道文化】 課題—方針—措置—進捗—一覧表

◎：達成 ○：着実に取組み中 △：未達成 ×：未着手 —：後半期の取組み

調査・研究・保存		文化財・文化遺産を守る							達成状況	現状	課題・ハードル	新たな取組み	
課題	方針	措置	事業名	事業概要	取組主体	財源	実施年						
							1年目～ (R3～5)	4年目～ (R6・7)	6年目～ (R8～12)				
構成文化財の継続した調査研究と共有が必要	地域住民の協力を得た継続事業の取組	調査研究と共有	伊勢街道の調査研究	継続した歴史学、民俗学、文献史的調査の実施	行政、所有者、学術	国費、町費	継続事業	→		△	個人所蔵の史料など継続して調査していく必要がある	面的・多分野横断的な調査体制の構築には予算や人員など制約が大きい	継続的に進めていくとともに、有形文化財（美術品や石造物）などの分野でも調査を実施する
			伊勢街道建造物群の調査研究	継続した建築学的調査の実施	行政、所有者、学術	国費、町費	継続事業	→		△	町並み調査ができていない新茶屋において三忠の主屋などの建物調査を実施したが、まだ詳細図を取れていない建造物もある	所有者の協力や予算面	活用事例なども示しながら、調査の意義を伝え協力を得て随時対応していく
			一般に向けた調査研究の共有	伊勢街道や構成文化財の調査研究情報を、広報めいわや、さいくうあと通信で共有	行政	町費	継続事業	→			○	通信や講座などで共有を行っている	
未指定文化財が多く、保存体制が確立されていない	指定・登録に向けた取組	指定・登録	指定・登録に向けた詳細調査	史跡の町指定、建造物の国登録に向けた詳細調査	行政、所有者、住民	町費	継続事業	→		△	国登録候補などの検討と合わせてさらに調査を進めていく必要がある	予算・人員	継続して取り組みを進めていく
地域社会全体での防災・防犯意識が十分でない	防災・防犯訓練の継続実施と住民参加の取組	防犯・防災	構成文化財の防犯・防災活動の実施	構成文化財の防災・防犯訓練の実施	行政、住民	国費、県費、町費	継続事業	→		△	防災・防犯に向けてさらなる啓発や訓練の実施が必要	予算・人員	啓発資料なども配布し所有者の防災・防犯意識を高めていく
街道文化の継続した伝承・継承活動の実施が必要	地域住民の協力を得た継続事業の取組	次代の担い手の育成と継承	街道文化の伝承・継承	街道文化の伝承、継承や文化財後継者の育成、支援	所有者、住民、行政	国費、県費、町費	継続事業	→		×	「史跡斎宮跡・伊勢街道まちづくり会」が解散し、今後地元で継承を担っていく人材の発掘や育成が急務	地域住民の協力	明和観光商社の事業等と連携し地域の人の人材の組織化を目指す
			民俗技術の伝承・継承	擬草紙など民俗技術の映像記録作成・活用や技術伝承の支援	所有者、住民、行政	国費、県費、町費	継続事業	→		◎	文化庁の補助事業で映像記録化ができた	担い手不足や、過去の技術に関する調査、若者層への魅力発信による人材育成	他部署や民間事業者とも連携し、映像以外での調査や支援、高校生などへの職業体験なども検討していく
	教育委員会や学校との連携が必要		史跡や建造物を活用した授業を企画し、学校教育との連携を実施。	学校、所有者、行政	国費、町費	継続事業	→			○	郷土学習用副読本なども活用し学校連携が進められている	地域の人人々に出会うための環境整備（移動手段、費用、調整）などを行うことや、地域住民の協力を得ること	郷土学習における地元住民との出会うの機会創出や多様な外部人材の発掘と学校間の人材情報や授業方法の共有について教育委員会と連携して充実を目指す
伊勢街道の景観や公共物の不統一	統一した景観基準が必要	歴史的景観の保護	風景条例（仮）の整備	伊勢街道沿いの歴史的景観を保護するための条例策定への取組	行政、住民	国費、県費、町費	継続事業	→		△	庁内において取組みを検討しているが、策定にはいたっていない	担当課と連携し町全体で策定していく必要がある	継続して取組む

活用		文化財・文化遺産を活用する								達成状況	現状	課題・ハードル	新たな取組み
課題	方針	措置	事業名	事業概要	取組主体	財源	実施年						
							1年目～ (R3～5)	4年目～ (R6・7)	6年目～ (R8～12)				
他地域との連携不足	事業を継続しつつ、他地域との連携が必要	価値と魅力の情報発信	構成文化財の公開	外部での構成文化財の講演会、現地公開イベントの実施	行政、民間、住民	国費、県費、町費	継続事業	→		○	講演会などを通じて魅力を発信している		
			伊勢街道関連地域との連携強化	伊勢街道沿線市町や伊勢本街道、熊野古道沿いの市町との連携事業検討	行政、民間、住民	国費、町費		→		△	伊勢市と連携した観光パンフレットの作成ができた	人員、他市町との連携、予算	広域での連携については後半期で引き続き検討したい
専門ガイドの不足	専門ガイドの育成	人材の育成	ガイドの育成・体制強化	構成文化財のガイド育成	民間、住民	国費、町費	→			△	説明をしてくれる地元住民もいるが、組織的なガイドの育成に至っていない	担い手不足	明和観光商社の事業等と連携し地域の人材の組織化を目指す
滞在時間の短さや観光商品の少なさ	建造物の活用や観光商品の企画化による滞在型観光へのシフト	観光振興の推進	構成文化財を活かした観光商品の開発	伊勢街道に因んだ土産物や商品、ツアー商品の開発	民間、行政	国費、町費	継続事業	→		○	擬革紙製品の開発、街道のサイクリングツアーなどが造成されつつある		
			伊勢街道の歴史的建造物の活用	伊勢街道沿いの民家を修復して観光施設として活用	民間、所有者	国費、町費	→			○	みのりや、斎宮スタジオ、澄野家、月華など活用も進んでいる		
環境整備		文化財・文化遺産の環境を整備する								達成状況	現状	課題・ハードル	新たな取組み
課題	方針	措置	事業名	事業概要	取組主体	財源	実施年						
							1年目～ (R3～5)	4年目～ (R6・7)	6年目～ (R8～12)				
継続した来訪者の見学環境改善が必要	文化財・文化遺産の見学環境の見直し	来訪者対策	伊勢街道の公園環境整備	伊勢街道沿い竹神社前の公園環境整備	行政、住民	国費、町費	継続事業	→		◎	R6年度公園整備化ができた		
誘導案内や移動手段が少ない	誘導案内看板の設置が必要	周遊性向上	誘導案内の整備	誘導看板等の適正設置	行政、民間	国費、町費		→		△	R7年度中に足元誘導などを設置していく予定、多言語対応やデザインの統一化は今後の課題	予算、複数の関係機関による統一感のないサインの設置	補助金や新たなデジタル技術などを活用し継続して取り組むとともに、関係機関で情報共有を密にして整備を進めていく